



TFW

Attorney Docket No. 019519-406

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of

Seiji HORIE et al.

Application No.: 10/668,152

Filed: September 24, 2003

For: OIL BASED INK COMPOSITION FOR
INKET PRINTER AND METHOD
FOR PRODUCTION THEREOF

)
)
) Group Art Unit: 1714
)
) Examiner: Callie E. SHOSHO
)
) Confirmation No.: 2760
)
)
)

SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIORITY DOCUMENT

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

The benefit of the filing date of the following priority foreign application in the following foreign country is hereby requested, and the right of priority provided in 35 U.S.C. § 119 is hereby claimed.

Country: Japan
Patent Application No.: 2002-282942
Filed: September 27, 2002.

In support of this claim, enclosed is a certified copy of said foreign application. Said prior foreign application is referred to in the oath or declaration and/or the Application Data Sheet. Acknowledgement of receipt of this certified copy is requested.

Respectfully submitted,

BUCHANAN INGERSOLL PC

Date: November 4, 2005

By: George F. Lesmes
George F. Lesmes
Registration No. 19,995

P.O. Box 1404
Alexandria, Virginia 22313-1404
(703) 836-6620

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年 9月27日
Date of Application:

出願番号 特願2002-282942
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2002-282942]

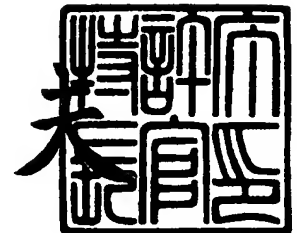
出願人 富士写真フイルム株式会社
Applicant(s):

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2003年10月21日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康



出証番号 出証特2003-3086489

【書類名】 特許願

【整理番号】 P-42607

【提出日】 平成14年 9月27日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 C09D 11/00

【発明者】

 【住所又は居所】 静岡県榛原郡吉田町川尻 4 0 0 0 番地 富士写真フイルム株式会社内

 【氏名】 堀江 誠治

【発明者】

 【住所又は居所】 静岡県榛原郡吉田町川尻 4 0 0 0 番地 富士写真フイルム株式会社内

 【氏名】 逆井 豊

【特許出願人】

 【識別番号】 000005201

 【氏名又は名称】 富士写真フイルム株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100105647

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 小栗 昌平

 【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

 【識別番号】 100105474

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 本多 弘徳

 【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100108589

【弁理士】

【氏名又は名称】 市川 利光

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100115107

【弁理士】

【氏名又は名称】 高松 猛

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100090343

【弁理士】

【氏名又は名称】 栗宇 百合子

【電話番号】 03-5561-3990

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 092740

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0003489

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 インクジェットプリンタ用油性インク組成物及びその製造方法

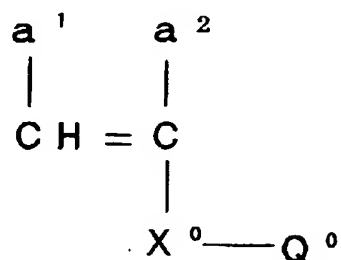
【特許請求の範囲】

【請求項 1】 非水分散媒中に、少なくとも着色剤とバインダー樹脂とを含有するインクジェットプリンタ用油性インク組成物において、該バインダー樹脂が非水分散媒に不溶性であり、(a) 炭素数 5～30 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A の少なくとも 1 種と、(b) 上記単量体 A と共重合可能な、重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体 B の少なくとも 1 種とからなる共重合体であることを特徴とするインクジェットプリンタ用油性インク組成物。

【請求項 2】 上記 (a) の炭素数 5～30 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A が下記一般式 (I) で示される請求項 1 記載のインクジェットプリンタ用油性インク組成物。

【化 1】

一般式 (I)



一般式 (I) 中、 X^0 は $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、 $-(\text{CH}_2)_k-\text{OCO}-$ 、 $-(\text{CH}_2)_k-\text{COO}-$ 、 $-\text{COO}(\text{CH}_2)_k-$ 、 $-\text{COO}(\text{CH}_2\text{O})_k-$ 、 $-\text{CONHCOO}-$ 、 $-\text{CONHCONH}-$ 、及び $-\text{O}-$ から選ばれる 1 種或いはそれらの組み合わせられた連結基を表わす。

ここで、 k は 1～3 の整数を表す。

a^1 と a^2 は、互いに同じでも異なってもよく、それぞれ水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、炭化水素基、 $-\text{COO}-\text{Z}^1$ 又は炭化水素を介した $-\text{COO}-\text{Z}^1$ を表す。 Z^1 は水素原子又は置換されてもよい炭化水素基を示す。

Q⁰は炭素数 5 ～ 30 の脂肪族環状炭化水素基を表す。

【請求項 3】 非水分散媒中に、更に顔料用分散剤を含有することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のインクジェットプリンタ用油性インク組成物。

【請求項 4】 着色剤が該バインダー樹脂により被覆された着色混和物であり、該着色混和物の分散後の最大粒径が 1 μ m 以下であり、平均粒径が 0.01 ～ 0.5 μ m の範囲である請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載のインクジェットプリンタ用油性インク組成物。

【請求項 5】 非水分散媒中に、少なくとも着色剤とバインダー樹脂とを含有するインクジェットプリンタ用油性インク組成物の製造方法であって、該バインダー樹脂が非水分散媒に不溶性であり、(a) 炭素数 5 ～ 30 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A の少なくとも 1 種と、(b) 上記単量体 A と共重合可能な、重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体 B の少なくとも 1 種とからなる共重合体であり、かつ、着色剤を該バインダー樹脂で被覆する工程を含むことを特徴とする前記製造法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、インクを飛翔させ、記録紙等の被転写媒体上に文字や画像を形成するインクジェット記録装置に供する油性インク組成物に関し、特に非水系分散媒中の顔料分散物を含む油性インク組成物及びその製造方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、インクジェット記録方式としては、インク粒子を連続的に発生させ、画像を形成するために使用するインク粒子の帯電量を制御し、偏向電極間に形成された静電場の中を通過させ飛行軌道制御するコンティニアスタイプと、印字に必要な時だけインクを噴射するオンデマンドタイプの二つの方式に大別する事ができる。

【0003】

この様なインクジェット記録に用いるインクとしては、各種の水溶性染料を水

または水及び水溶性有機溶剤からなる溶媒中に溶解、必要により各種添加剤が添加されたものが主流を占めている（以下水性染料インクと呼称する）。しかしながら、水性染料インクを用いて実印字を行った場合、紙種により記録紙上でインクがにじみ高品位な印字が得られない、形成された記録画像の耐水性・耐光性が劣っている、記録紙上での乾燥が遅く尾引きが起こる、カラーの混色（異色のドットを隣接して印字した場合に色境界面で生じる色濁りあるいは色ムラ）による記録画像の劣化等の欠点があった。

【0004】

そこで前記の水性染料インクの問題点である記録画像の耐水性・耐光性を改善する意味で、水性分散媒あるいは非水性分散媒体中に顔料微粒子を分散してなる、顔料系インクをインクジェット記録方式に適用する試みが種々なされている。例えば、水を主成分とした分散媒中に顔料を分散させたインクジェットプリンタ用インクが提案されている（特許文献1～5参照）。しかしながら、顔料が媒体に不溶であるため、一般に分散安定性が悪い、ノズル部で目詰まりを起こしやすい等の問題を有していた。

【0005】

一方、顔料を非極性の絶縁性溶媒に分散させたインク（以下油性顔料インクと呼称する）は、紙への吸収性が良いため滲みが少なく、又、記録画像の耐水性が良いなどの利点がある。例えば、アルコールアミド系分散剤（特許文献6参照）、ソルビタン系分散剤（特許文献7参照）により顔料を微粒子化しているインクが提案されているが、これらにおいても、顔料粒子を非極性の絶縁性溶媒に均一に微粒子分散させるには十分でなく、また、分散安定性が悪いため、ノズル部で目詰まりを起こしやすい等の問題を依然として有していた。更に顔料自体には記録紙に対する固着能がないために耐擦過性に乏しいという大きな欠点があった。

【0006】

これらを改良するために、非極性の絶縁性溶媒に可溶な樹脂を固着剤および顔料分散剤として兼用して用いる樹脂溶解型油性インクが提案されている。例えば、特許文献8（特開平3-234772号公報）には上記の樹脂としてテルペンフェノール系樹脂が提案されているものの、顔料の分散安定性が十分でなく、イ

ンクとしての信頼性に問題があった。更に、樹脂を非極性溶媒中に溶解させているために、顔料を記録紙に完全に定着させるだけの樹脂が残らず耐水性及び耐擦過性が十分ではなかった。

また、特許文献 9（特開平 5-202329 号公報）及び特許文献 10（特開平 5-320551 号公報）には非極性の絶縁性溶媒に可溶な樹脂として脂環式飽和炭化水素が提案されているものの、顔料の分散安定性及び耐擦過性が十分でなく、耐擦過性を確保するために樹脂の添加量を増加させると、インク粘度が増大してインクが吐出しなくなるなどの問題があった。

【0007】

そこで高度の耐擦過性を得るために、非極性の絶縁性溶媒に不溶、あるいは半溶解な樹脂で顔料粒子を被覆することが提案されている。例えば、特許文献 11（特開平 4-25574 号公報）にはマイクロカプセル法等により顔料を樹脂で被覆した油性インクが提案されている。しかしながら、これらにおいては、顔料内包樹脂粒子を均一に微粒子分散することが困難で、その分散安定性も十分でないため、インクとしての信頼性に問題があった。更に、近年は水性染料インクを使用した一般のインクジェットプリンタで写真画質での高画質化が達成されており、顔料インクでも発色性や透明性を上げるために顔料をできるだけ微細化し、且つその分散状態を安定に保持することが要求されて来ている。

【0008】

しかし、一方で、顔料を微細にすればするほど顔料の微細化と同時に顔料一次粒子の破碎が起き、更に、表面エネルギーの増加により、同時に凝集エネルギーが大きくなるため、再凝集が起こりやすくなり、結局は微細化した顔料分散体の貯蔵安定性が損なわれるといった弊害が生じてくる。この様に、インクジェットプリンタ用油性顔料インクに使用される顔料分散体に対する要求は、より高度の微細化が要求されているものの、顔料を微粒子分散するには高度な技術を要すると共に、その分散安定性を高めることは非常に困難なものであり、上記を満足すべき油性顔料インクの出現が望まれている。

【0009】

また、着色剤を分散、被覆させるバインダー樹脂としては、一般に、（1）顔

料表面を十分に被覆して着色混和物を形成し、熱などにより適度の流動性を持つこと、(2) 着色剤を被覆することにより分散媒中によく分散させること、(3) なるべく透明であること、(4) 定着により記録媒体に固着して十分な耐擦過性を与えること等の特性を有することが望まれている。

バインダー樹脂に望まれるこれらの特性、すなわち、着色剤に吸着し分散媒中によく分散させる機能、更に記録媒体に固着して十分な耐擦過性を与える機能から、バインダー樹脂の基本構成としては、分散媒に溶媒和する成分と溶媒和しにくい成分、更には極性基を有する成分を持っているのが理想であるが、これらの特性をすべて満足するバインダー樹脂を見いだすのは困難であった。

【0 0 1 0】

【特許文献 1】

特開平 2 - 2 5 5 8 7 5 号公報

【特許文献 2】

特開平 3 - 7 6 7 6 7 号公報

【特許文献 3】

特開平 3 - 7 6 7 6 8 号公報

【特許文献 4】

特開昭 5 6 - 1 4 7 8 7 1 号公報

【特許文献 5】

特開昭 5 6 - 1 4 7 8 6 8 号公報

【特許文献 6】

特開昭 5 7 - 1 0 6 6 0 号公報

【特許文献 7】

特開昭 5 7 - 1 0 6 6 1 号公報

【特許文献 8】

特開平 3 - 2 3 4 7 7 2 号公報

【特許文献 9】

特開平 5 - 2 0 2 3 2 9 号公報

【特許文献 1 0】

特開平 5-320551 号公報

【特許文献 11】

特開平 4-25574 号公報

【0011】

【発明が解決しようとする課題】

そこで、本発明の第一の目的は、顔料が均一に微粒子分散され、且つ顔料分散液の分散安定性に優れることにより、ノズル部での目詰まりが起きない吐出安定性の高いインクジェットプリンタ用油性インク組成物を提供する事である。

本発明の第二の目的は、記録紙上での乾燥性、記録画像の耐水性、耐光性に優れており、且つ高度の耐擦過性を有するインクジェットプリンタ用油性インク組成物を提供する事である。

本発明の第三の目的は、光学特性に優れ鮮明なカラー画像の印刷物を多数枚印刷可能なインクジェットプリンタ用油性インク組成物を提供する事である。

【0012】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは上記の課題を解決するために鋭意研究した結果、下記構成により解決される事が見出された。

(1) 非水分散媒中に、少なくとも着色剤とバインダー樹脂とを含有するインクジェットプリンタ用油性インク組成物において、該バインダー樹脂が非水分散媒に不溶性であり、(a) 炭素数 5～30 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A の少なくとも 1 種と、(b) 上記単量体 A と共重合可能な、重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体 B の少なくとも 1 種とからなる共重合体であることを特徴とするインクジェットプリンタ用油性インク組成物。

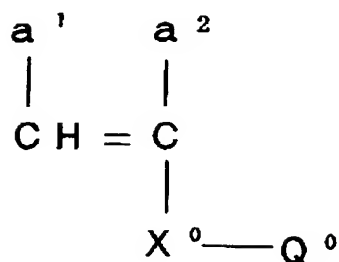
【0013】

(2) 上記 (a) の炭素数 5～30 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A が下記一般式 (I) で示される上記 (1) 記載のインクジェットプリンタ用油性インク組成物。

【0014】

【化2】

一般式(1)



【0015】

一般式(I)中、 X^0 は $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-(CH_2)_k-OCO-$ 、 $-(CH_2)_k-COO-$ 、 $-COO(CH_2)_k-$ 、 $-COO(CH_2O)_k-$ 、 $-CONHCOO-$ 、 $-CONHCONH-$ 、及び $-O-$ から選ばれた1種或いはそれらの組み合わせられた連結基を表わす。ここで、 k は1～3の整数を表す。

a^1 と a^2 は、互いに同じでも異なってもよく、それぞれ水素原子、ハロゲン原子、シアノ基、炭化水素基、 $-COO-Z^1$ 又は炭化水素を介した $-COO-Z^1$ を表す。 Z^1 は水素原子又は置換されてもよい炭化水素基を示す。

Q^0 は炭素数5～30の脂肪族環状炭化水素基を表す。

【0016】

(3) 非水分散媒中に、更に顔料用分散剤を含有することを特徴とする上記(1)又は(2)に記載のインクジェットプリンタ用油性インク組成物。

(4) 着色剤が該バインダー樹脂により被覆された着色混和物であり、該着色混和物の分散後の最大粒径が $1\mu m$ 以下であり、平均粒径が $0.01\sim 0.5\mu m$ の範囲である上記(1)～(3)のいずれかに記載のインクジェットプリンタ用油性インク組成物。

(5) 非水分散媒中に、少なくとも着色剤とバインダー樹脂とを含有するインクジェットプリンタ用油性インク組成物の製造方法であって、該バインダー樹脂が非水分散媒に不溶性であり、(a)炭素数5～30の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体Aの少なくとも1種と、(b)上記単量体Aと共重合可能な、重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体Bの少なくとも1種と

からなる共重合体であり、かつ、着色剤を該バインダー樹脂で被覆する工程を含むことを特徴とする前記製造法。

【0017】

【発明の実施の形態】

以下に本発明について詳細に述べる。

本発明におけるバインダー樹脂は、(a) 炭素数 5～30 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A の少なくとも 1 種と、(b) 上記単量体 A と共重合可能な、重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体 B の少なくとも 1 種とからなる共重合体であり、上記非水分散媒に対して不溶性又は難溶性であり、且つ常温においてワックス状又は固体状となる樹脂であって、記録媒体上に画像形成後に、色材を固定する機能を有する。

【0018】

まず、(a) 炭素数 5～30 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A について説明する。

(a) 炭素数 5～30 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A は、限定されるものではないが、上記一般式 (I) で示される化合物であるのが好ましい。

【0019】

一般式 (I) 中、 X^0 は $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-(CH_2)_k-OCO-$ 、 $-(CH_2)_k-COO-$ 、 $-COO(CH_2)_k-$ 、 $-COO(CH_2O)_k-$ 、 $-CONHCOO-$ 、 $-CONHCONH-$ 、及び $-O-$ から選ばれた 1 種或いはそれらの組み合わせられた連結基を表わす。ここで、 k は 1～3 の整数を表す。

a^1 及び a^2 は、互いに同じでも異なってもよく、好ましくは水素原子、ハロゲン原子（例えば、塩素原子、臭素原子等）、シアノ基、炭素数 1～3 のアルキル基（例えば、メチル基、エチル基、プロピル基等）、 $-COO-Z^1$ 又は炭化水素を介した $-COO-Z^1$ を表す。ここで、 Z^1 は水素原子、又は置換されてもよい炭化水素基を示し、好ましくは水素原子、炭素数 1～18 のアルキル基、アルケニル基、アラルキル基もしくは脂環式基、又はアリール基を表し、これらは置換されていてもよい。介する炭化水素としては $-CH_2-$ 等のアルキレン基

が好ましい。

【0020】

Q⁰は炭素数5～30の脂肪族環状炭化水素基を表す。

脂肪族環状炭化水素基は、炭素数5～30の環状構造を構成する炭化水素基であり、単環式、多環式、架橋環式、スピロ環式等の環状構造が挙げられる。

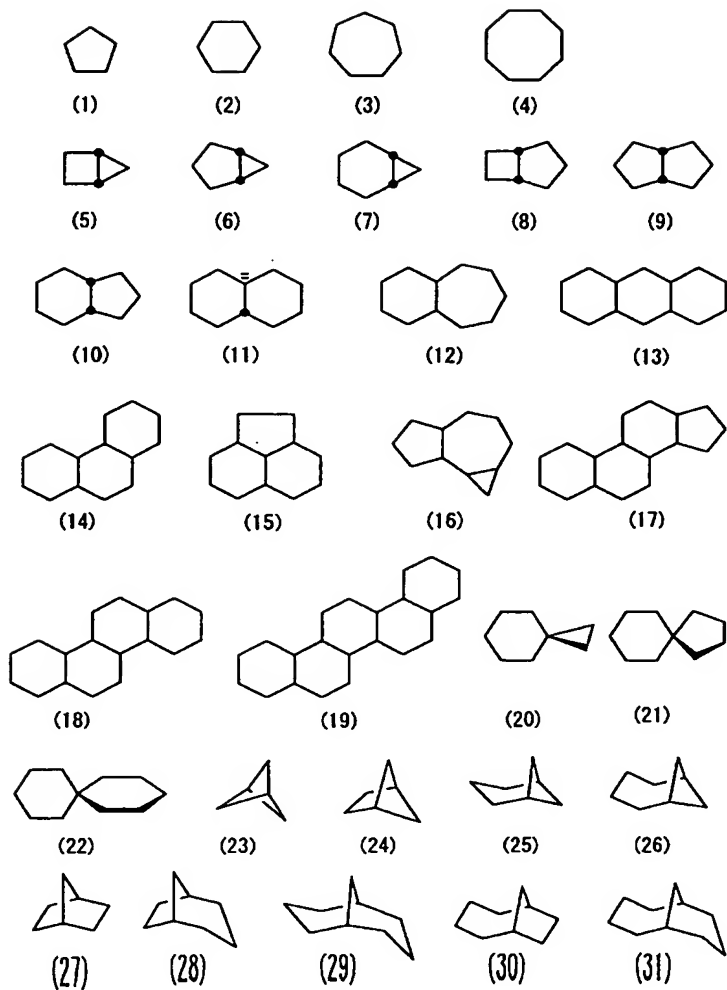
具体的には、炭素数5以上のモノシクロ、ビシクロ、トリシクロ、テトラシクロ、ペンタシクロ構造等を有する基を挙げることができる。好ましくは炭素数6～25が好ましい。

【0021】

以下に脂肪族環状炭化水素基（脂環式炭化水素基と呼ぶこともある）のうち、脂環式部分の構造例を示す。なお、下記構造例において、共役しない位置に二重結合を含有してもよい。

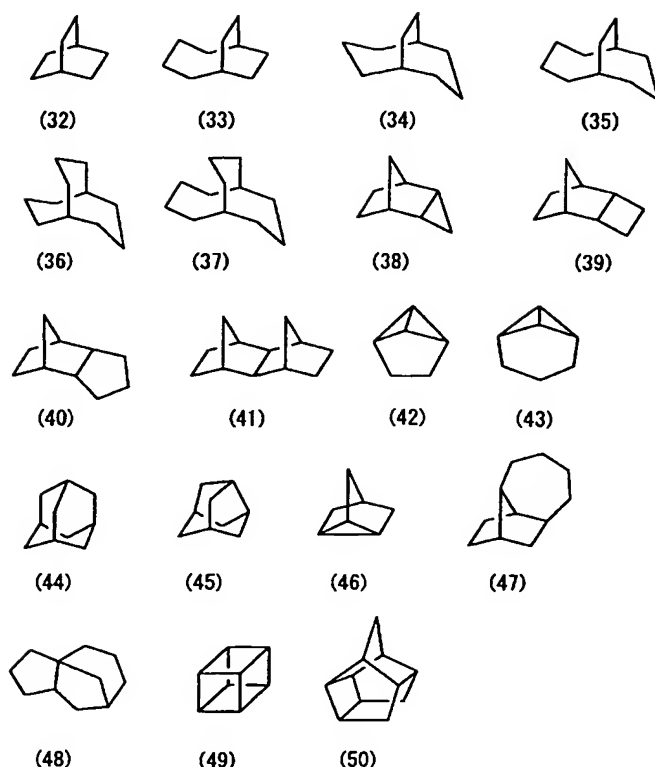
【0022】

【化 3】



【 0 0 2 3 】

【化 4】



【0024】

また、これらの脂環式炭化水素基は少なくとも1種の置換基を有していてもよい。脂環式炭化水素基の置換基としては、アルキル基、置換アルキル基、ハロゲン原子（フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子）、シアノ基、水酸基、ニトロ基、アルコキシ基、カルボキシル基、アミド基、アシル基、アルコキシカルボニル基等が挙げられる。

アルキル基としてはメチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、ブチル基、ヘプチル基、ヘキシル基等の低級アルキル基が好ましく、更に好ましくはメチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基である。置換アルキル基の置換基としては、水酸基、ハロゲン原子、アルコキシ基等が挙げられる。

アルコキシ基又はアルコキシカルボニル基におけるアルコキシ基としてはメトキシ基、エトキシ基、プロポキシ基、ブトキシ基等の炭素数1～4のアルコキシ基が好ましい。

アシル基としては、炭素数1～6の脂肪族基（例えばメチル基、エチル基、ブ

ロピル基、ブチル基、ヘプチル基、ヘキシル基)等が挙げられる。置換基はこれらに限定されるものではなく、(a)に相当する単量体Aの重合体が、非水溶媒に不溶性となるものであれば好ましく用いられる。

【0025】

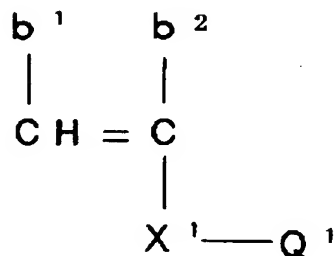
次に(b)の上記単量体Aと共重合可能で、重合して非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体Bについて説明する。一官能性単量体Bは、上記単量体Aと共重合可能で、重合する事により非水分散媒に可溶性となる単量体であればいずれでもよい。

具体的には、例えば下記一般式(II)で表される単量体が挙げられる。

【0026】

【化5】

一般式(II)



【0027】

一般式(II)中、 X^1 、 b^1 、 b^2 はそれぞれ一般式(I)中の X^0 、 a^1 、 a^2 と同一の基を表す。

【0028】

一般式(II)において、 Q^1 は炭素数8以上の脂肪族基を表す。分岐または直鎖の脂肪族基であり、ハロゲン原子、ヒドロキシル基、アミノ基、アルコキシ基等の置換基を含有していてもよく、また酸素原子、イオウ原子、窒素原子等のヘテロ原子がその脂肪族基の主鎖の炭素原子-炭素原子結合の間に介されていてもよい。脂肪族基の具体例としては、例えばオクチル基、デシル基、ドデシル基、トリデシル基、テトラデシル基、ヘキサデシル基、オクタデシル基、ドコシル基、ドデセニル基、ヘキサデセニル基、オレイル基、リノレイル基、ドコセニル基等

が挙げられる。

【0029】

単量体Aと共重合可能な、炭素数8以上の長鎖の脂肪族基を有する一官能性単量体の具体例としては、総炭素数10～32の脂肪族基を有する、アクリル酸、 α -フルオロアクリル酸、 α -クロロアクリル酸、 α -シアノアクリル酸、メタクリル酸、クロトン酸、マレイン酸、イタコン酸の如き、不飽和カルボン酸のエステル類；上記不飽和カルボン酸のアミド類；高級脂肪酸のビニルエステル類又はアリルエステル類（高級脂肪酸として、例えば、ラウリン酸、ミリスチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、リノール酸、ベヘン酸等が挙げられる）；総炭素数10～32の脂肪族基が酸素原子に結合したビニルエーテル類（脂肪族基としては上記例示したものと同一ものが挙げられる）、ビニル酢酸等を挙げることができる。

【0030】

本発明においてバインダー樹脂は、（a）炭素数5～30の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体Aと、（b）単量体Aと共重合可能な、重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体Bとともに、他の単量体Cを含有してもよい。

単量体Cとしては、一官能性単量体A及びBと共重合可能な単量体であって、共重合体であるバインダー樹脂が上記非水分散媒に対して不溶性又は難溶性であれば、いずれでもよい。

【0031】

単量体Cの具体例としては、例えば炭素数1～6の脂肪族カルボン酸（酢酸、プロピオン酸、酪酸、モノクロロ酢酸等）のビニルエステル類又はアリルエステル類；アクリル酸、メタクリル酸、クロトン酸、イタコン酸、マレイン酸等の不飽和カルボン酸の炭素数1～6の置換されてもよいアルキル基もしくは置換されてもよいアリール基のエステル類またはアミド類（アルキル基としては例えばメチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基、ペンチル基、2-クロロエチル基、2-ブロモエチル基、2-ヒドロキシエチル基、2-シアノエチル基、2-ニトロエチル基、2-メトキシエチル基、3-エトキシプロピル基、2-ホスホノエ

チル基、3-スルホプロピル基、2,3-ジヒドロキシプロピル基、ベンジル基、3-フェネチル基、2-ナフチル基、2-(N,N-ジメチルアミノ)エチル基、2-(N,N-ジエチルアミノ)エチル基、2-メタンスルホニルエチル基、2-ベンゼンスルホニルエチル基、2-カルボキシエチル基、4-カルボキシブチル基、3-クロロプロピル基、2-ヒドロキシ-3-クロロプロピル基、2-フルフリルエチル基、2-チエニルエチル基、2-カルボキシアミドエチル基等、アリアル基としては例えばフェニル基、ナフチル基、アントラニル基、シアノフェニル基、クロロフェニル基、トリル基、キシリル基、メシチル基、メトキシフェニル基、アセトフェニル基、メトキシフェニル基、メトキシカルボニルフェニル基、カルボキシフェニル基、N,N-ジメチルアミノメチルフェニル基等);スチレン誘導体(例えば、スチレン、ビニルトルエン、 α -メチルスチレン、ビニルナフタレン、クロロスチレン、ジクロロスチレン、ブロモスチレン、ビニルベンゼンカルボン酸、クロロメチルスチレン、ヒドロキシメチルスチレン、メトキシメチルスチレン、ビニルベンゼンカルボキシアミド、ビニルベンゼンスルホアミド等);アクリル酸、メタクリル酸、クロトン酸、マレイン酸、イタコン酸等の不飽和カルボン酸;マレイン酸、イタコン酸の環状酸無水物;アクリロニトリル;メタクリロニトリル;重合性二重結合基含有のヘテロ環化合物(具体的には、例えば高分子学会編「高分子データハンドブック-基礎編-」、p175~184、培風館(1986年刊)に記載の化合物、例えば、N-ビニルピリジン、N-ビニルイミダゾール、N-ビニルピロリドン、ビニルチオフェン、ビニルテトラヒドロフラン、ビニルオキサゾリン、ビニルチアゾール、N-ビニルモルホリン等)等が挙げられる。これらの単量体Cは、バインダー樹脂中に2種以上含有されていてもよい。

【0032】

バインダー樹脂の構成成分である、重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体Bの使用量が多くなると、バインダー樹脂が非水分散媒に対して可溶性となるため、この場合には、単量体Cとしては、不飽和カルボン酸の炭素数1~3のアルキルエステル類を使用することが好ましい。不飽和カルボン酸の炭素数1~3のアルキルエステル類の例としては、アクリル酸、メタクリル酸、ク

ロトン酸の炭素数 1～3 のアルキルエステル類：アクリル酸メチル、メタクリル酸メチル、クロトン酸メチル、アクリル酸エチル、メタクリル酸エチル、クロトン酸エチル、アクリル酸プロピル、メタクリル酸プロピル、クロトン酸プロピル等が挙げられる。

【0033】

本発明のバインダー樹脂は、(a) 炭素数 5～30 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A 及び (b) 単量体 A と共重合可能で重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体 B の各々少なくとも 1 種から少なくとも構成され、全重合体 100 重量部中、単量体 A は 30～98 重量部、単量体 B は 2～70 重量部であることが好ましい。

より好ましくは単量体 A は 40～90 重量部、単量体 B は 5～40 重量部である。他の単量体 C は、全重合体 100 重量部中 50 重量部以下であることが好ましく、より好ましくは 40 重量部以下である。

【0034】

本発明のインクジェットプリンタ用油性インク組成物に使用される非水分散媒は、非極性の絶縁性溶剤であり、誘電率 1.5～20 及び表面張力 15～60 mN/m (25℃にて) であることが好ましい。更に望まれる特性としては、毒性の少ないこと、引火性が少ないこと、臭気が少ないことである。

【0035】

かかる非水分散媒としては、直鎖状もしくは分岐状の脂肪族炭化水素、脂環式炭化水素、芳香族炭化水素、石油ナフサ及びこれらのハロゲン置換体等から選ばれた溶媒が挙げられる。例えばヘキサン、オクタン、イソオクタン、デカン、イソデカン、デカリン、ノナン、ドデカン、イソドデカン、エクソン社のアイソパー E、アイソパー G、アイソパー H、アイソパー L、フィリップ石油社のソルトール、出光石油化学社の IP ソルベント、石油ナフサではシェル石油化学社の S.B.R. シェルゾール 70、シェルゾール 71、モービル石油社のベガゾール等から選ばれた溶媒を単独又は混合して用いることができる。

【0036】

好ましい炭化水素溶剤としては、沸点が 150～350℃の範囲にある高純度

のイソパラフィン系炭化水素が挙げられ、市販品としては前述のエクソン化学製のアイソパー G, H, L, M, V (商品名)、ノーパー 12, 13, 15 (商品名)、出光石油化学製の IP ソルベント 1620, 2028 (商品名)、日本石油化学製のアイソゾール 300, 400 (商品名)、アムスコ OMS、アムスコ 460 溶剤 (アムスコ; スピリッツ社の商品名) 等が挙げられる。これらの製品は、極めて純度の高い脂肪族飽和炭化水素であり、25℃における粘度は 3 cSt 以下、25℃における表面張力は 22.5~28.0 mN/m、25℃における体積比抵抗は $10^{10} \Omega \cdot \text{cm}$ 以上である。また、反応性が低く安定であり、低毒性で安全性が高く、臭気も少ないという特徴がある。

【0037】

ハロゲン置換の炭化水素系溶媒としてフルオロカーボン系溶媒があり、例えば C_7F_{16} 、 C_8F_{18} などの $\text{C}_n\text{F}_{2n+2}$ で表されるパーフルオロアルカン類 (住友 3M 社製「フロリナート PF5080」、「フロリナート PF5070」 (商品名) 等)、フッ素系不活性液体 (住友 3M 社製「フロリナート FC シリーズ」 (商品名) 等)、フルオロカーボン類 (デュポンジャパンリミテッド社製「クライトックス GPL シリーズ」 (商品名) 等)、フロン類 (ダイキン工業株式会社製「HCFC-141b」 (商品名) 等)、 $[\text{F}(\text{CF}_2)_4\text{CH}_2\text{CH}_2\text{I}]$ 、 $[\text{F}(\text{CF}_2)_6\text{I}]$ 等のヨウ素化フルオロカーボン類 (ダイキンファインケミカル研究所製「I-1420」、「I-1600」 (商品名) 等) 等がある。

【0038】

本発明で使用される非水系の溶媒として、更に高級脂肪酸エステルや、シリコンオイルも使用できる。シリコンオイルの具体例としては、低粘度の合成ジメチルポリシロキサンが挙げられ、市販品としては、信越シリコン製の KF96L (商品名)、東レ・ダウコーニング・シリコン製の SH200 (商品名) 等が挙げられる。

【0039】

シリコンオイルとしてはこれらの具体例に限定されるものではない。これらのジメチルポリシロキサンは、その分子量により非常に広い粘度範囲のものが入手可能であるが、1~20 cSt の範囲のものをを用いるのが好ましい。これらの

ジメチルポリシロキサンは、イソパラフィン系炭化水素同様、 $10^{10} \Omega \cdot \text{cm}$ 以上の体積比抵抗を有し、高安定性、高安全性、無臭性といった特徴を有している。またこれらのジメチルポリシロキサンは、表面張力が低いことに特徴があり、 $18 \sim 21 \text{ mN/m}$ の表面張力を有している。

【0040】

これらの非水分散媒とともに、混合して使用できる溶媒としては、アルコール類（例えばメチルアルコール、エチルアルコール、プロピルアルコール、ブチルアルコール、フッ化アルコール等）、ケトン類（例えばアセトン、メチルエチルケトン、シクロヘキサノン等）、カルボン酸エステル類（例えば酢酸メチル、酢酸エチル、酢酸プロピル、酢酸ブチル、プロピオン酸メチル、プロピオン酸エチル等）、エーテル類（例えばジエチルエーテル、ジプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン等）及びハロゲン化炭化水素類（例えばメチレンジクロリド、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、メチルクロロホルム等）、等の溶媒が挙げられる。

【0041】

次に、本発明で使用される着色剤について詳細に述べる。

着色剤としては、特に限定されるものではなく、一般に市販されているすべての有機顔料及び無機顔料が挙げられる。

【0042】

例えば、イエロー色を呈するものとして、C. I. ピグメントイエロー1（ファストイエローG等）、C. I. ピグメントイエロー74の如きモノアゾ顔料、C. I. ピグメントイエロー12（ジスアジイエローAAA等）、C. I. ピグメントイエロー17の如きジスアゾ顔料、C. I. ピグメントイエロー180の如き非ベンジジン系のアゾ顔料、C. I. ピグメントイエロー100（タートラジンイエローレーキ等）の如きアゾレーキ顔料、C. I. ピグメントイエロー95（縮合アゾイエローGR等）の如き縮合アゾ顔料、C. I. ピグメントイエロー115（キノリンイエローレーキ等）の如き酸性染料レーキ顔料、C. I. ピグメントイエロー18（チオフラビンレーキ等）の如き塩基性染料レーキ顔料、フラバントロンイエロー（Y-24）の如きアントラキノン系顔料

、イソインドリノンイエロー 3 R L T (Y-110) の如きイソインドリノン顔料、キノフタロンイエロー (Y-138) の如きキノフタロン顔料、イソインドリンイエロー (Y-139) の如きイソインドリン顔料、C. I. ピグメントイエロー 153 (ニッケルニトロソイエロー等) の如きニトロソ顔料、C. I. ピグメントイエロー 117 (銅アゾメチンイエロー等) の如き金属錯塩アゾメチン顔料等が挙げられる。

【0043】

マゼンタ色を呈するものとして、C. I. ビグメントレッド 3 (トルイジンレッド等) の如きモノアゾ系顔料、C. I. ビグメントレッド 38 (ピラズロンレッド B 等) の如きジスアゾ顔料、C. I. ビグメントレッド 53:1 (レーキレッド C 等) や C. I. ビグメントレッド 57:1 (ブリリアントカーミン 6 B) の如きアゾレーキ顔料、C. I. ビグメントレッド 144 (縮合アゾレッド B R 等) の如き縮合アゾ顔料、C. I. ビグメントレッド 174 (フロキシ B レーキ等) の如き酸性染料レーキ顔料、C. I. ビグメントレッド 81 (ローダミン 6 G' レーキ等) の如き塩基性染料レーキ顔料、C. I. ビグメントレッド 177 (ジアントラキノニルレッド等) の如きアントラキノ系顔料、C. I. ビグメントレッド 88 (チオインジゴボルドー等) の如きチオインジゴ顔料、C. I. ビグメントレッド 194 (ペリノンレッド等) の如きペリノン顔料、C. I. ビグメントレッド 149 (ペリレンスカーレット等) の如きペリレン顔料、C. I. ビグメントレッド 122 (キナクリドンマゼンタ等) の如きキナクリドン顔料、C. I. ビグメントレッド 180 (イソインドリノンレッド 2 B L T 等) の如きイソインドリノン顔料、C. I. ビグメントレッド 83 (マダーレーキ等) の如きアリザリンレーキ顔料等が挙げられる。

【0044】

シアン色を呈する顔料として、C. I. ビグメントブルー 25 (ジアニシジンプルー等) の如きジスアゾ系顔料、C. I. ビグメントブルー 15 (フタロシアニンプルー等) の如きフタロシアニン顔料、C. I. ビグメントブルー 24 (ピーコックブルーレーキ等) の如き酸性染料レーキ顔料、C. I. ビグメントブルー 1 (ピクロチアピュアブルー B O レーキ等) の如き塩基性染料レーキ顔料

、 C. I. ビグメントブルー 60（インダントロンブルー等）の如きアントラキノ系顔料、 C. I. ビグメントブルー 18（アルカリブルー V-5：1）の如きアルカリブルー顔料等が挙げられる。

【0045】

ブラック色を呈する顔料として、BK-1（アニリンブラック）の如きアニリンブラック系顔料等の有機顔料や酸化鉄顔料、及びファーネスブラック、ランプブラック、アセチレンブラック、チャンネルブラック等のカーボンブラック顔料類が挙げられる。

カーボンブラック顔料の具体例としては、三菱化学（株）の MA-8，MA-10，MA-11，MA-100，MA-220，#25，#40，#260，#2600，#2700B，#3230B，CF-9，MA-200RB や、デグサ社のプリンテックス 75，90、キャボット社のモナーク 800，1100 などが挙げられる。

また、金、銀、銅などの色再現のために金属粉の応用も考えられる。

【0046】

本発明において着色剤は、微粒子化を容易に且つ分散性を向上させるために、技術情報協会発行の「顔料分散技術」第 5 章に記載されている表面処理されたものが好ましい。着色剤の表面処理としてはロジン処理やフラッシング樹脂処理などが挙げられ、更に一般に市販されている加工顔料も着色剤として用いることができる。市販加工顔料の具体例としては、チバスペシャルティケミカルズ社のマイクロリス顔料等が挙げられる。

【0047】

顔料とバインダー樹脂の使用量は、顔料 1 重量部に対して、バインダー樹脂は 0.3～10 重量部用いられる。好ましくは、顔料 1 重量部に対して、バインダー樹脂は 0.4～7 重量部用いられる。より好ましくは、顔料 1 重量部に対して、バインダー樹脂は 0.5～5 重量部用いられる。顔料に対してバインダー樹脂の使用量が 0.3 重量部より少ないと混練時の顔料分散効果が小さくなり好ましくない。また、顔料に対してバインダー樹脂の使用量が 10 重量部より多くなると、インク組成物中の顔料濃度が下がり画像濃度が低下するため必要な画像濃度

が得られない。

【0048】

本発明のインクジェットプリンタ用油性インク組成物は、上記した通りのバインダー樹脂と着色剤を主成分として含有するが、着色剤はバインダー樹脂中に分散（混和）されて、結果としてバインダー樹脂により被覆されている。

【0049】

次に、着色剤を上記したバインダー樹脂で被覆して着色混和物を作る方法について説明する。着色混和物は例えば以下の方法で調製する。

①着色剤とバインダー樹脂とを、バインダー樹脂の軟化点以上の温度でロールミル、バンバリミキサー、ニーダー等の混練機を用いて熔融混練し、冷却後に粉碎して着色混和物を得る方法

②バインダー樹脂を溶剤に溶解し、着色剤を加え、ボールミル、アトライター、サンドグライNDER等で湿式分散し、溶剤を蒸発させて着色混和物を得るか、又は、分散物を該バインダー樹脂の非溶剤中に注ぎ、沈殿させて混和物を得、その後乾燥させて着色混和物を得る方法

③フラッシング法で、顔料の含水ペースト（ウェットケーキ）を樹脂または樹脂溶剤と共に混練し、水を樹脂又は樹脂溶液で置換した後、水及び溶剤を減圧乾燥して着色混和物を得る方法

【0050】

本発明においては、上記で説明した着色混和物は、非水溶媒中で通常微粒子状に分散している。

着色混和物のこの分散後の平均粒径の範囲は $0.01 \sim 0.5 \mu\text{m}$ であるのが好ましく、より好ましくは $0.05 \sim 0.3 \mu\text{m}$ である。最大粒径は $1 \mu\text{m}$ 以下であるのが好ましく、より好ましくは $0.7 \mu\text{m}$ 以下である。

尚、本発明において、粒径は、超遠心式自動粒度分布測定装置CAPA700（堀場製作所）にて測定されたものを意味する。

【0051】

本発明において、微粒子状に分散させ且つ非水溶媒中で分散安定化させるために顔料分散剤を使用することが好ましい。

【0052】

本発明に使用することができる、着色剤を非水分散媒中で微粒子状に分散するための顔料用分散剤としては、該非水分散媒中で適用される一般の顔料用分散剤が使用できる。顔料用分散剤としては前記非極性の絶縁性溶媒に相溶し、安定的に顔料を微粒子分散できるものであれば良い。顔料用分散剤の具体例としては、ソルビタン脂肪酸エステル（ソルビタンモノオレエート、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンセスキオレエート、ソルビタントリオレエート等）、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル（ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート、ポリオキシエチレンソルビタンモノオレエート等）、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル（ポリオキシエチレンモノステアレート、ポリエチレングリコールジイソステアレート等）、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル（ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル等）、脂肪族ジエタノールアミド系などのノニオン系界面活性剤、及び高分子系分散剤としては、分子量1000以上の高分子化合物が良く、例えば、スチレン-マレイン酸樹脂、スチレン-アクリル樹脂、ロジン、BYK-160、162、164、182（ビッケミー社製のウレタン系高分子化合物）、EFKA-47、LP-4050（EFKA社製のウレタン系分散剤）、ソルスパーズ24000（ゼネカ社製のポリエステル系高分子化合物）、ソルスパーズ17000（ゼネカ社の脂肪族ジエタノールアミド系）等が挙げられる。

【0053】

高分子系顔料分散剤としては上記の他に更に、分散媒に溶媒和するラウリルメタクリレート、ステアリルメタクリレート、2-エチルヘキシルメタクリレート、セチルメタクリレート等のモノマーと、分散媒に溶媒和しにくいメチルメタクリレート、エチルメタクリレート、イソプロピルメタクリレート、スチレン、ビニルトルエン等のモノマー及び極性基を有する部分からなるランダム共重合体、あるいは特開平3-188469号公報に開示されているグラフト共重合体が挙げられる。グラフト共重合体を使用する場合には、バインダー樹脂として使用しているグラフト共重合体と同一のものを顔料用分散剤と使用してよい。

上述の極性基を含むモノマーとしては、アクリル酸、メタクリル酸、イタコン酸、フマル酸、マレイン酸、スチレンスルホン酸またはそのアルカリ塩などの酸性基モノマーと、ジメチルアミノエチルメタクリレート、ジエチルアミノエチルメタクリレート、ビニルピリジン、ビニルピロリジン、ビニルピペリジン、ビニルラクタムなどの塩基性基モノマーが挙げられる。また、この他にはスチレン-ブタジエン共重合体、特開昭60-10263号公報に開示されているスチレンと長鎖アルキルメタクリレートのブロック共重合体等が挙げられる。好ましい顔料用分散剤としては、特開平3-188469号公報に開示されているグラフト共重合体等が挙げられる。

【0054】

顔料用分散剤の使用量は、顔料100重量部に対して、0.1～300重量部が好ましい。顔料用分散剤の添加量が0.1重量部より少ないと顔料分散効果が小さく好ましくない。また、300重量部より多く用いても用いた分の効果が得られない。

【0055】

着色混和物と顔料分散剤の使用としては、例えば次のような方法がある。

1. 着色混和物と顔料分散剤を予め混合した顔料組成物を非水分散媒中に添加して分散する。
2. 非水分散媒に着色混和物と顔料分散剤を別々に添加して分散する。
3. 非水分散媒に着色混和物と顔料分散剤を予め別々に分散し得られた分散体を混合する。この場合、顔料分散剤を溶剤のみで分散しても良い。
4. 非水分散媒に着色混和物を分散した後、得られた顔料分散体に顔料分散剤を添加する。

等の方法があり、これらのいずれによっても目的とする効果を得ることができる。

【0056】

上記の着色混和物を非水分散媒中で混合又は分散する機械としては、ディゾルバー、ハイスピードミキサー、ホモミキサー、ニーダー、ボールミル、ロールミル、サンドミル、アトライター等が使用できる。

【0057】

本発明のインク組成物には、所望により各種添加剤を加えてもよい。インクジェット方式あるいはインクジェット吐出ヘッド、インク供給部、インク循環部の材質・構造等によって、任意に選択されインク組成物として含有される。

例えば、甘利武司監修「インクジェットプリンター技術と材料」第17章、（株）シーエムシー刊（1998年）等に記載されている。

【0058】

具体的には、脂肪酸類（例えば、炭素数6～32のモノカルボン酸、多塩基酸；例えば、2-エチルヘキシン酸、ドデセニルコハク酸、ブチルコハク酸、2-エチルカプロン酸、ラウリル酸、パルミチン酸、エライジン酸、リノレイン酸、リシノール酸、オレイン酸、ステアリン酸、エナント酸、ナフテン酸、エチレンジアミン四酢酸、アビエチン酸、デヒドロアビエチン酸、水添ロジン等）、樹脂酸、アルキルフタル酸、アルキルサリチル酸等の金属塩（金属イオンの金属としては、Na、K、Li、B、Al、Ti、Ca、Pb、Mn、Co、Zn、Mg、Ce、Ag、Zr、Cu、Fe、Ba等）、界面活性化合物類（例えば、有機リン酸又はその塩類として、炭素数3～18のアルキル基から成るモノ、ジ又はトリアルキルリン酸等、有機スルホン酸又はその塩類として、長鎖脂肪族スルホン酸、長鎖アルキルベンゼンスルホン酸、ジアルキルスルホコハク酸等又はその金属塩、両性界面活性化合物として、レシチン、ケファリン等のリン脂質等が挙げられる）、フッ素原子及び／又はジアルキルシロキサン結合基を含有するアルキル基含有の界面活性剤類、脂肪族アルコール類（例えば、炭素数9～20の分岐状アルキル基から成る高級アルコール類、ベンジルアルコール、フェネチルアルコール、シクロヘキシルアルコール等）、多価アルコール類（例えば、炭素数2～18のアルキレングリコール（エチレングリコール、1,2-プロピレングリコール、1,3-プロピレングリコール、1,4-ブタンジオール、ネオペンチルグリコール、1,6-ヘキサジオール、ドデカンジオールなど））；炭素数4～1000のアルキレンエーテルグリコール（ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、ジプロピレングリコール、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、ポリテトラメチレンエーテルグリコールなど）；炭素数

5～18の脂環式ジオール（1，4-シクロヘキサジメタノール、水素添加ビスフェノールAなど）；炭素数12～23のビスフェノール類（ビスフェノールA、ビスフェノールF、ビスフェノールSなど）の炭素数2～18のアルキレンオキサイド（エチレンオキサイド、プロピレンオキサイド、ブチレンオキサイド、 α -オレフィンオキサイドなど）付加物、グリセリン、トリメチロールエタン、トリメチロールプロパン、ペンタエリスリトール、ソルビトール等のポリオール類；3価～8価またはそれ以上のフェノール類（トリスフェノールPA、フェノールノボラック、クレゾールノボラックなど）；上記3価以上のポリフェノール類の炭素数2～18のアルキレンオキサイド付加物（付加モル数は2～20）、上記多価アルコールのエーテル誘導体（ポリグリコールアルキルエーテル類、アルキルアリールポリグリコールエーテル等）、多価アルコールの脂肪酸エステル誘導体、多価アルコールのエーテルオレート誘導体（例えば、エチレングリコールモノエチルアセテート、ジエチレングリコールモノブチルアセテート、プロピレングリコールモノブチルプロピオレート、ソルビタンモノメチルジオキサノレート等）、アルキルナフタレンスルホネート、アルキルアリールスルホネート等の化合物が挙げられるが、これらに限定されるものではない。

【0059】

各種添加剤の使用量は、インク組成物の表面張力が15～60 mN/m（25℃において）及び粘度が1.0～40 cPの範囲となるように調整して用いることが好ましい。

【0060】

次に、本発明におけるインク組成物の製造方法について説明する。

本発明において、非水分散媒中に、少なくとも着色剤とバインダー樹脂とを含有するインクジェットプリンタ用油性インク組成物の製造方法は、該バインダー樹脂が非水分散媒に不溶性であり、（a）炭素数5～30の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体Aの少なくとも1種と、（b）上記単量体Aと共重合可能な、重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体Bの少なくとも1種とからなる共重合体であり、かつ、着色剤を該バインダー樹脂で被覆する工程を含むことを特徴とする。

即ち、上記に詳述したバインダー樹脂を用い、それで着色剤を被覆する。

また好ましくは、バインダー樹脂で被覆された着色混和物を非水分散媒中に分散させる工程をも有する。

【0061】

本発明のインクジェットプリンタ用油性インク組成物は、種々のインクジェット記録方式における油性インクとして用いることができ、インクジェット記録方式としては、例えば、ピエゾ方式、東芝及びNTTなどのスリットジェットに代表される静電方式インクジェットプリンタやサーマル方式インクジェットプリンタ等を挙げることができる。

【0062】

【実施例】

以下に本発明のバインダー樹脂の製造例及び実施例を例示するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0063】

バインダー樹脂の製造例1：(P-1)

単量体Aとしてシクロヘキシルメタクリレート90g、単量体Bとしてオクタデシルメタクリレート10gおよびトルエン200gの混合溶液を窒素気流下攪拌しながら温度80℃に加温した。2, 2'-アゾビス(イソブチロニトリル)(略称A. I. B. N.)を1.0g加え4時間反応させた。更にA. I. B. N.を1.0g加えて2時間反応させ、更にA. I. B. N.を0.5g加えて2時間反応させた。冷却後、メタノール5リットル中にこの混合溶液を再沈させ、粉末を濾集後、乾燥して、白色粉末94gを得た。得られた重合体の重量平均分子量(Mw)は 4.2×10^4 であった。分子量はGPC法によるポリスチレン換算値である。また、重合体P-1はイソパラフィン系炭化水素(エクソン化学製：商品名アイソパーG、以下、アイソパーGと略す。)に対して殆ど溶解せず難溶であった。

【0064】

得られた重合体の製造例2～17：(P-2)～(P-17)

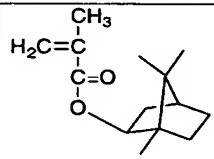
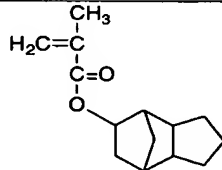
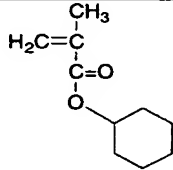
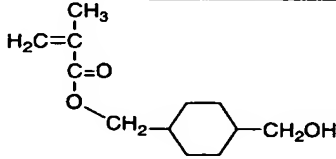
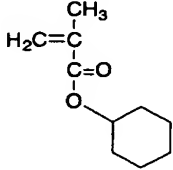
得られた重合体の製造例1において、シクロヘキシルメタクリレート90g及

びオクタデシルメタクリレート 10 g の代わりに下記表-A に記載の各単量体を用いた他は、製造例 1 と同様にして各バインダー樹脂 (P-2) ~ (P-17) を合成した。各バインダー樹脂の重量平均分子量 (M_w) は $1.5 \sim 6 \times 10^4$ であった。各バインダー樹脂のアイソパー G に対する溶解性は、不溶性かまたは難溶であった。

【0065】

【表 1】

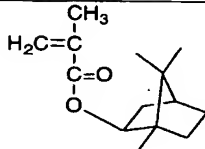
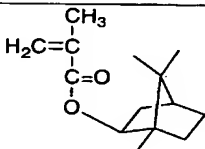
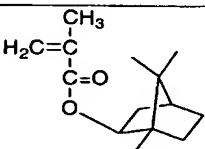
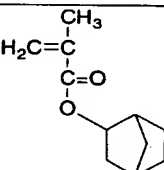
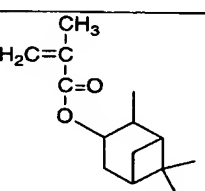
表-A

樹脂の製造例	バインダー樹脂	単量体 A	単量体 B	単量体 C
2	P-2	 90 g	LMA 10 g	—
3	P-3	 90 g	2 EHMA 10 g	—
4	P-4	 70 g	SMA 10 g	MMA 10 g DEMA 10 g
5	P-5	 60 g	SMA 20 g	MMA 20 g
6	P-6	 50 g	SMA 30 g	MMA 20 g

【0066】

【表 2】

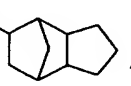
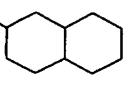

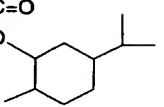
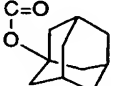
表-A (続き)

樹脂の 製造例	ハインダ -樹脂	単量体 A	単量体 B	単量体 C
7	P-7	 70 g	LMA 10 g	MMA 20 g
8	P-8	 50 g	SMA 20 g	MMA 30 g
9	P-9	 60 g	SMA 10 g	MMA 20 g MAA 10 g
10	P-10	 60 g	2 EHMA 20 g	MMA 20 g
11	P-11	 60 g	SMA 10 g	MMA 30 g

【0067】

【表 3】

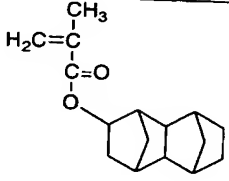
表-A (続き)

樹脂の 製造例	ハインター -樹脂	単量体 A	単量体 B	単量体 C
12	P-12	$\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \\ \text{H}_2\text{C}=\text{C} \\ \\ \text{C}=\text{O} \\ \\ \text{O} \end{array}$  60 g	LMA 10 g	MMA 30 g
13	P-13	$\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \\ \text{H}_2\text{C}=\text{C} \\ \\ \text{C}=\text{O} \\ \\ \text{O} \end{array}$  70 g	LMA 10 g	EMA 20 g
14	P-14	$\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \\ \text{H}_2\text{C}=\text{C} \\ \\ \text{C}=\text{O} \\ \\ \text{O} \end{array}$  70 g	LMA 10 g	MMA 20 g
15	P-15	$\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \\ \text{H}_2\text{C}=\text{C} \\ \\ \text{C}=\text{O} \\ \\ \text{O} \end{array}$  70 g	LMA 10 g	MA 10 g DEMA 10 g
16	P-16	$\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \\ \text{H}_2\text{C}=\text{C} \\ \\ \text{C}=\text{O} \\ \\ \text{O} \end{array}$  60 g	SMA 10 g	EA 20 g MAA 10 g

【0068】

【表 4】

表-A (続き)

樹脂の 製造例	ハインター -樹脂	単量体 A	単量体 B	単量体 C
17	P-17	 70 g	2 EHMA 10 g	PMA 20 g

SMA: ステアリルメタクリレート
 LMA: ラウリルメタクリレート
 2EHMA: 2-エチルヘキシルメタクリレート
 MMA: メチルメタクリレート
 EMA: エチルメタクリレート
 PMA: プロピルメタクリレート
 MA: メチルアクリレート
 EA: エチルアクリレート
 DEMA: N, N-ジエチルアミノエチルメタクリレート
 MAA: メタクリル酸

【0069】

比較用バインダー樹脂の製造例 1: (R-1)

メチルメタクリレート 90 g、ステアリルメタクリレート 10 g、トルエン 200 g を、バインダー樹脂の製造例 1 と同様に窒素気流下攪拌しながら温度 80 °C で 1 時間加熱後、重合開始剤、A. I. B. N. を加え、80 °C でトータル 8 時間重合させた。製造例 1 と同様にしてメタノール中に再沈殿させ重合体を得た。重量平均分子量 (Mw) は 3.7×10^4 であった。

【0070】

比較用バインダー樹脂の製造例 2 ~ 5: (R-2) ~ (R-5)

比較製造例 1 において、メチルメタクリレート 90 g の代わりに下記表-B 記載の各単量体を用いた他は、比較製造例 1 と全く同様にして各比較用バインダー樹脂 (R-2) ~ (R-5) を合成した。各バインダー樹脂の重量平均分子量 (Mw) は $1.8 \sim 3.4 \times 10^4$ であった。比較用バインダー樹脂 R-5 はアイソパー G に対して易溶解性であり、(R-2) ~ (R-4) はアイソパー G に対

して不溶解性であった。

【0071】

【表5】

表-B

比較用樹脂 の製造例	比較用バイン ダー樹脂	比較用単量体	単量体B	単量体C
2	R-2	ベンジルメタクリレート 90g	SMA 10g	-
3	R-3	ベンジルメタクリレート 60g	SMA 20g	MMA 20g
4	R-4	シクロヘキシルメタクリ レート 100g	-	-
5	R-5	シクロヘキシルメタクリ レート 10g	SMA 90g	-

【0072】

インク組成物の実施例1: IJ-1

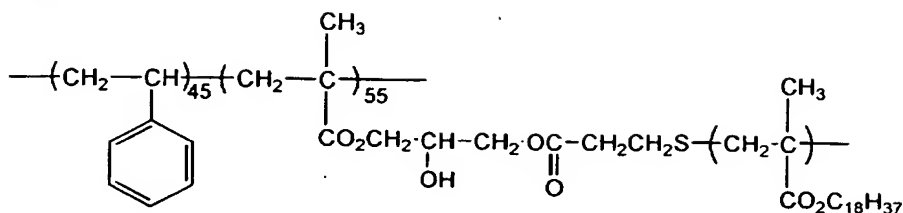
青色顔料としてリノールブルーFG-7350 (Pigment Blue 15:3 東洋インキ社製) 100重量部、バインダー樹脂として (P-1)、100重量部をトリオブレンダーで予備粉碎しよく混合した後に、90℃に加熱した三本ロールミルで熔融混練 (20分) した。上記の顔料混練物をピンミルで粉碎した。

次に顔料混練物 10 重量部、アイソパー G 65 重量部、下記構造の顔料分散剤 (D-1) をアイソパー G に加熱溶解して調液した 20 wt % 溶液を 25 重量部、及び 3 G-X ガラスビーズ 250 重量部とともにペイントシェイカー (東洋精機 KK) で 90 分間混合した。分散液中の顔料樹脂粒子の体積平均粒径を、超遠心式自動粒度分布測定装置 CAPA 700 (堀場製作所) にて測定したところ、 $0.19 \mu\text{m}$ と良好に分散されていた。

【0073】

【化6】

顔料分散剤 (D-1)



【0074】

ガラスビーズをろ過により除去した上記顔料樹脂粒子分散液を、溶媒留去により一旦濃縮しアイソパーGにて希釈する事によりインク組成物 (I J-1) を調製した。得られたインク組成物の顔料樹脂粒子濃度は16重量%、粘度は10 cP (E型粘度計、温度25℃で測定)、表面張力は23 mN/m (協和界面科学社製の自動表面張力計、温度25℃で測定) であった。

【0075】

インクジェット記録装置としてカラーファクシミリ彩遊記UX-E1CL (シャープ社製) を用い、上記インク組成物 (I J-1) を充填して、富士写真フイルムインクジェットペーパーハイグレード専用紙上に描画したところ、ノズル詰まりが無く安定に吐出した。得られた描画画像は、滲みがなく、画像濃度1.5の良質で明瞭なものであった。次に、フルベタパターンを印字して、印字物を乾燥させた後ベタ部を指で擦ったところ、目視で地汚れが全くなく極めて耐擦過性に優れていることが判った。インク組成物は、長期に保存しても沈降凝集が見られず分散性が極めて良好であった。

【0076】

尚、評価基準を下記に示す。

<インクの分散安定性>

インクを調液後、温度35℃で1ヶ月間放置した。容器を手で数回振った後に、粒子サイズ (粒度分布装置: 堀場製作所製CAPA-700)、凝集物の有無を評価した。

○: サイズ変化がなく、凝集物が全く見られない。

△：サイズが少し増大し、小さい凝集物が見られる。

×：サイズが大きく増大しており大小の凝集物が多数ある。

<インクの吐出安定性>

○：24時間連続吐出しても、目詰まりが全くない。

△：数時間後に目詰まりが発生し吐出しない。

×：直ぐに目詰まりが発生し全く吐出しない。

【0077】

<描画画質>

○：滲み、画像欠陥がなく良好。

△：滲みはないが、一部に画像欠陥がある。

×：滲み、画像欠陥があり不良。

<画像耐擦過性>

○：目視で地汚れが全くない。

△：目視で地汚れがかすかに確認できる。

×：目視で地汚れが容易に確認できる。

【0078】

比較例 1 ～ 5

実施例 1 において、本発明の脂肪族環状炭化水素成分を有するバインダー樹脂 (P-1) の代わりに、脂肪族環状炭化水素成分を有しないアクリル樹脂である比較用バインダー樹脂 (R-1)、及び芳香族炭化水素成分を有する比較用バインダー樹脂 (R-2) と (R-3)、及びポリエステル樹脂 GV-230 (東洋紡績 (株) 製) を用いた他は実施例 1 と全く同様に熔融混練し、それぞれ比較例 1 ～ 4 の顔料混練物を得た。比較例 5 では、顔料混練物としてポリエステルマスターバッチであるホスタコピー C601 (クラリアント社製) を用いた。得られた顔料混練物を用いて、実施例 1 と全く同様にして、比較用インク組成物 (S-1) ～ (S-5) を調製した。尚、その際、インク組成物の表面張力は 23 mN/m、粘度は顔料樹脂粒子濃度を変え 10 ～ 14 cp に調節した。比較用インク組成物 (S-1) ～ (S-5) の性能評価結果を表 C に示す。

【0079】

【表 6】

表-C

	顔料樹脂 粒子の粒 径 (μm)	インク組成物の 分散安定性	吐出安定性 (目詰まり)	描画画質	描画画像の 耐擦過性
実施例 1	0.19	○	○(なし)	○	○
比較例 1	0.46	△×(凝集物生成)	×(発生)	×(白筋発生)	×(指擦りで欠落)
比較例 2	0.68	×(凝集物生成)	×(発生)	×(白筋発生)	×(指擦りで欠落)
比較例 3	0.73	×(凝集物生成)	×(発生)	×(白筋発生)	×(指擦りで欠落)
比較例 4	1.32	×(凝集物生成)	×(発生)	×(白筋発生)	×(指擦りで欠落)
比較例 5	1.39	×(凝集物生成)	×(発生)	×(白筋発生)	×(指擦りで欠落)

【0080】

表-Cの結果より、脂肪族環状炭化水素成分を有するバインダー樹脂を用いた実施例1のインク組成物(IJ-1)は顔料樹脂粒子が微粒子分散されていて、長期保存しても沈降凝集がなく分散安定性に優れている事が判る。一方、比較例1~5のインク組成物(S-1)~(S-5)は、顔料樹脂粒子の粗大粒子が混在し、短期間の保存で著しい凝集が発生した。吐出安定性は実施例1のインク組成物(IJ-1)がノズルの目詰まりを発生せず良好なのに対し、比較例1~5のインク組成物(S-1)~(S-5)はいずれも連続一時間以内でインクの吐出が不安定になり、ノズルの目詰まりが発生した。インクジェット記録装置での描画画像は、実施例1のインク組成物(IJ-1)はインク滲みがなく良質で鮮明なものであったのに対し、比較例1~5のインク組成物(S-1)~(S-5)では、描画の初めから吐出不良を生じ画像が欠落している白筋欠陥が発生した。次に描画画像の耐擦過性は、実施例1のインク組成物(IJ-1)では地汚れが全くなく極めて耐擦過性に優れているのに対し、比較例1~5のインク組成物(S-1)~(S-5)はいずれもベタ画像部を指で擦ると画像部の欠落が認められた。

【0081】

以上の様に、本発明の脂肪族環状炭化水素成分を有するバインダー樹脂を用いた本発明のインク組成物は、顔料樹脂粒子が微粒子分散され分散安定性に優れている事、ノズルの目詰まりがなく吐出安定性に優れる事、インク滲みがなく良質で鮮明な描画画像を与える事、描画画像の耐擦過性に優れている事が判る。

【0082】

比較例 6～7

実施例 1 において、脂肪族環状炭化水素基を含有する重合体成分と溶媒可溶重合体成分を有する、本発明の非水溶媒に不溶性のバインダー樹脂（P-1）の代わりに、脂肪族環状炭化水素基を含有する重合体成分のみを有する比較用バインダー樹脂（R-4）を用いた他は実施例 1 と全く同様に熔融混練し、比較例 6 の顔料混練物を得た。比較例 7 では、脂肪族環状炭化水素基を含有する重合体成分と溶媒可溶重合体成分を有するものの非水溶媒に可溶性の比較用バインダー樹脂（R-5）を用いて、熔融混練の代わりにアイソパー G 中にバインダーを溶解して溶液を添加した他は実施例 1 と全く同様にして、比較例 7 の顔料混練物を得た。得られた顔料混練物を実施例 1 と全く同様にして、比較用インク組成物（S-6）及び（S-7）を調製した。尚、その際、インク組成物の表面張力は 23 mN/m、粘度は顔料樹脂粒子濃度を変え 10～14 cP に調節した。比較用インク組成物（S-6）及び（S-7）の分散液中の顔料樹脂粒子の体積平均粒径はそれぞれ 0.55 μm 、0.42 μm であった。比較用インク組成物（S-6）及び（S-7）の描画性能の評価結果を表-D に示す。

【0083】

【表 7】

表-D

	顔料樹脂 粒子の粒 径 (μm)	インク組成物の 分散安定性	吐出安定性 (目詰まり)	描画画質	描画画像の 耐擦過性
実施例 1	0.19	○	○(なし)	○	○
比較例 6	0.55	×(凝集物生成)	×(発生)	×(白筋発生)	×(指擦りで欠落)
比較例 7	0.42	△(凝集物生成)	×(発生)	×(白筋発生)	△(指擦りで欠落)

【0084】

表-D の結果より、脂肪族環状炭化水素基を含有する重合体成分のみからなる比較用バインダー樹脂（R-4）を用いた比較例 6 のインク組成物（S-6）では、顔料樹脂粒子の粗大粒子が混在し、短期間の保存で著しい凝集が発生した。また目詰まりの発生により吐出不良を生じ画像が欠落している白筋欠陥が発生し

た。耐擦過性もベタ画像部を指で擦ると画像部の欠落が認められた。

一方、脂肪族環状炭化水素基を含有する重合体成分と溶媒可溶重合体成分を有するものの、バインダー樹脂が非水溶媒に可溶性の比較用バインダー樹脂（R-5）を用いた比較例 7 のインク組成物（S-7）では、顔料樹脂粒子の粗大粒子が混在するために、短期間の保存で凝集が発生した。更に、比較用バインダー樹脂（R-5）が可溶性のために、インク組成物中の粘度が増大するために、インクの吐出が不安定になり、ノズルの目詰まりが発生した。描画画像も画像が欠落している白筋欠陥が発生した。また、描画画像の耐擦過性はベタ画像部を指で擦ると画像部の欠落が認められ、まだ十分ではなかった。

【0085】

以上より、脂肪族環状炭化水素基を含有する重合体成分と溶媒可溶重合体成分を有する、非水溶媒に不溶性の、本発明のバインダー樹脂を用いたインク組成物のみが、特異的に、顔料樹脂粒子が微粒子分散され分散安定性に優れている事、ノズルの目詰まりがなく吐出安定性に優れる事、インク滲みがなく良質で鮮明な描画画像を与える事、描画画像の耐擦過性に優れている事が判る。

【0086】

インク組成物の実施例 2：（I J-2）

青色顔料としてリノールブルー F G-7 3 5 0（Pigment Blue 1 5：3 東洋インキ社製）1 0 0 重量部、バインダー樹脂として（P-2）、1 0 0 重量部をトリオブレンダーで予備粉碎しよく混合した後に、1 2 0℃に加熱した卓上型ニーダー P B V（入江商会社製）で熔融混練（1 2 0 分）した。上記の顔料混練物をピンミルで粉碎した。次に顔料混練物 1 8 重量部、アイソパー G 1 6 重量部、実施例 1 の顔料分散剤 D-1 の 2 0 w t %アイソパー G 溶液を 9 0 重量部、及び M K-3 G X ガラスビーズ 2 5 0 重量部とともにペイントシェイカー（東洋精機 K K）で 3 0 分間予備分散した後、ダイノミル K D L 型（シンマルエンタープライズ社）にて 3 0 0 0 r p m で二時間湿式分散を行った。分散液中の顔料樹脂粒子の体積平均粒径は 0. 1 6 μ m と良好に分散されていた。

【0087】

実施例 1 と同様にしてインク組成物（I J-2）を調製した。尚、その際、イ

ンク組成物の表面張力は 23 mN/m 、粘度は顔料樹脂粒子濃度を変え 12 cp に調節した。実施例 1 と同様にして描画性能を評価したところ、ノズル詰まりが無く長時間安定に吐出した。得られた描画画像は、滲みがなく、画像濃度 1.5 の良質で明瞭なものであり、ベタ部の耐擦過性にも優れていることが判った。インク組成物は、長期に保存しても沈降凝集が見られず分散性が極めて良好であつた。

【0088】

インク組成物の実施例 3 ～ 16：(IJ-3) ～ (IJ-16)

実施例 2 において、バインダー樹脂 (P-2) の代わりに、下記のバインダー樹脂を用い、溶融混練時の温度を $80 \sim 150^\circ\text{C}$ とバインダー樹脂の軟化点より高めに設定した他は、実施例 2 と全く同様にして溶融混練、湿式分散を行いインク組成物 (IJ-3) ～ (IJ-16) を得た。尚、その際、インク組成物の表面張力は 23 mN/m 、粘度は顔料樹脂粒子濃度を変え $10 \sim 14 \text{ cp}$ に調節した。インク組成物 (IJ-3) ～ (IJ-16) の分散液中の顔料樹脂粒子の体積平均粒径結果を表 E に示す。実施例 2 と同様にしてインク組成物 (IJ-3) ～ (IJ-16) の描画性能を評価した。いずれのインク組成物もノズル詰まりが無く長時間安定に吐出し、また、得られた描画画像は滲みがなく十分な画像濃度を有し良質で明瞭なものであった。ベタ部の耐擦過性にも優れていることが判った。インク組成物 (IJ-3) ～ (IJ-16) は、長期に保存しても沈降凝集が見られず分散性が極めて良好であつた。

【0089】

【表 8】

表-E					
インク 組成物	バインダー 樹脂	体積平均粒 子径(μm)	インク 組成物	バインダー 樹脂	体積平均粒 子径(μm)
I J-3	P-3	0.19	I J-10	P-10	0.21
I J-4	P-4	0.20	I J-11	P-11	0.19
I J-5	P-5	0.18	I J-12	P-12	0.16
I J-6	P-6	0.18	I J-13	P-13	0.22
I J-7	P-7	0.17	I J-14	P-14	0.20
I J-8	P-8	0.17	I J-15	P-15	0.17
I J-9	P-9	0.21	I J-16	P-17	0.21

【0090】

インク組成物の実施例 17～21: (I J-17)～(I J-21)

実施例 2 において、青色顔料リノールブルー F G-7350 (Pigment Blue 15:3 東洋インキ社製) の代わりに、下記の黄色顔料、赤色顔料、黒色顔料、青色顔料を用い、またバインダー樹脂として (P-2) 100 g の代わりに (P-4) 200 g を用いた他は実施例 2 と全く同様にしてインク組成物 (I J-17)～(I J-21) を得た。尚、その際、インク組成物の表面張力は 23 mN/m、粘度は 12 cP に調節した。インク組成物 (I J-17)～(I J-21) の分散液中の顔料樹脂粒子の体積平均粒径結果を表-F に示す。

実施例 1 と同様にしてインク組成物 (I J-17)～(I J-21) の描画性能を評価したところ、いずれのインク組成物もノズル詰まりが無く長時間安定に吐出し、また、得られた描画画像は滲みがなく十分な画像濃度を有し良質で明瞭なものであった。ベタ部の耐擦過性にも優れていることが判った。インク組成物 (I J-17)～(I J-21) は、長期に保存しても沈降凝集が見られず分散性が極めて良好であった。

【0091】

【表 9】

表-F

インク組成物	カラー顔料	体積平均粒子径(μm)
I J-17	トナーイエローHG *1	0.18
I J-18	リノールレッド6B FG4213 *2	0.18
I J-19	トナーマゼンタE02 *3	0.19
I J-20	カーボンブラック MA-8 *4	0.16
I J-21	ホスタバームブルーB2G *5	0.17

*1 Pigment Yellow 180 (クラリアント社製)

*2 Pigment Red 57:1 (東洋インキ社製)

*3 Pigment Red 122 (クラリアント社製)

*4 Pigment Black 7 (三菱化学社製)

*5 Pigment Blue 15:3 (クラリアント社製)

【0092】

インク組成物の実施例 22

実施例 2 において、顔料分散剤 (D-1) の代わりに市販顔料分散剤のソルス パース 17000 (アビシア社製) を用い、またバインダー樹脂として (P-2) の代わり (P-4) を用いた他は実施例 2 と全く同様にして湿式分散を行った。得られた顔料樹脂粒子分散液の体積平均粒径は $0.24\mu\text{m}$ であった。表面張力、粘度を調整してインク組成物 (I J-22) を得た。

実施例 1 と同様にしてインク組成物 (I J-22) の描画性能を評価したところ、ノズル詰まりが無く長時間安定に吐出し、また、得られた描画画像は滲みが無く十分な画像濃度を有し良質で明瞭なものであった。ベタ部の耐擦過性にも優れていることが判った。インク組成物 (I J-22) は長期に保存しても沈降凝集が見られず分散性が極めて良好であった。

【0093】

インク組成物の実施例 23~25: (I J-23) ~ (I J-25)

実施例 22 において、顔料分散剤 (D-1) の代わりに顔料分散剤 (D-2) ~ (D-4) を顔料分散剤として用いた他は実施例 22 と全く同様にして表面張力、粘度を調整し、インク組成物 (I J-23) ~ (I J-25) を得た。インク組成物 (I J-23) ~ (I J-25) の分散液中の顔料樹脂粒子の体積平均粒径結果を表-G に示す。インク組成物 (I J-23) ~ (I J-25) の描画性能を評価したところ、ノズル詰まりが無く長時間安定に吐出し、また、得られ

た描画画像は滲みがなく十分な画像濃度を有し良質で明瞭なものであった。ベタ部の耐擦過性にも優れていることが判った。インク組成物 (IJ-23) ~ (IJ-25) は、長期に保存しても沈降凝集が見られず分散性が極めて良好であった。

尚、顔料分散剤 (D-2) 及び (D-3) は、下記構造を有しており、また顔料分散剤 (D-4) は、以下の通り製造した。

【0094】

【表10】

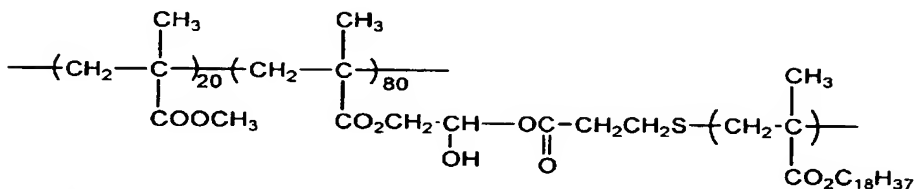
表-G

インク組成物	顔料分散剤	体積平均粒子径 (μm)
IJ-23	D-2	0.18
IJ-24	D-3	0.17
IJ-25	D-4	0.20

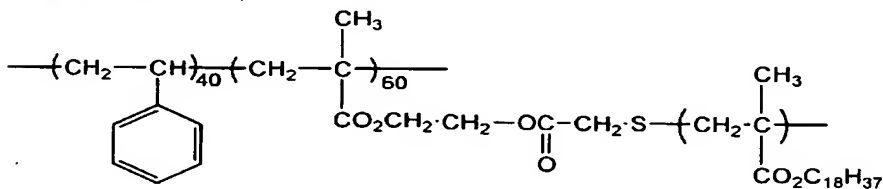
【0095】

【化7】

顔料分散剤 (D-2)



顔料分散剤 (D-3)



共重合比は重量比を表す

【0096】

〈顔料用分散剤 (D-4) の製造〉

東亜合成 (株) より AS-6 として発売されているスチレン系マクロモノマー (末端基; メタクリロイル基、数平均分子量; 6000) を用いて顔料用分散剤

(D-4) を合成した。スチレン系マクロモノマー (AS-6) 50 g、ステア
リルメタクリレート 50 g およびトルエン 200 g の混合溶液を 4 つ口フラスコ
にとり窒素気流下攪拌しながら温度 80℃ に加温した。重合開始剤として、1,
1'-アゾビス (1-シクロヘキサンカルボニトリル) 1 g を加え、80℃ で 2
4 時間重合させた。重合後室温に冷却し、トルエンをさらに 200 g 添加し、メ
タノール 4 リットル中に再沈殿させた。濾過後、得られた白色粉末を乾燥し、重
量平均分子量 7.9×10^4 のグラフト共重合体 [P (ステアリルメタクリレー
ト) - g - P (スチレン)] の粉末 92 g を得た。

【0097】

以上、本発明のインク組成物がインクジェットプリンタ用油性インクとして有
用な事を、ピエゾ方式を例にして説明してきたが、この方式に限定されずに東芝
及び NTT などのスリットジェットに代表される静電方式インクジェットプリン
タやサーマル方式インクジェットプリンタにも適用できる。

【0098】

【発明の効果】

脂肪族環状炭化水素基を含有する重合体成分と溶媒可溶重合体成分を有する、
本発明のバインダー樹脂を用いたインク組成物により、顔料が均一に微粒子分散
され、且つ顔料分散液の分散安定性に優れるインクジェットプリンタ用油性イン
クを提供できる。また、ノズル部での目詰まりが起きない吐出安定性の高いイン
クジェットプリンタ用油性インクを提供できる。更に記録紙上での乾燥性、記録
画像の耐水性、耐光性に優れており、且つ高度の耐擦過性を有するインクジェッ
トプリンタ用油性インクを提供できる。また、インク滲みがなく良質で鮮明なカ
ラー画像の印刷物を多数枚印刷可能なインクジェットプリンタ用油性インクを提
供できる。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 顔料が均一に微粒子分散され、且つ顔料分散液の分散安定性に優れることにより、ノズル部での目詰まりが起きない吐出安定性の高いインクジェットプリンタ用油性インク組成物を提供する事、更に記録紙上での乾燥性、記録画像の耐水性、耐光性に優れており、且つ高度の耐擦過性を有するインクジェットプリンタ用油性インク組成物及びその製造方法を提供する事である。

【解決手段】 非水分散媒中に、少なくとも着色剤とバインダー樹脂とを含有するインクジェットプリンタ用油性インク組成物において、該バインダー樹脂が非水分散媒に不溶性であり、（a）炭素数 5 ～ 3 0 の脂肪族環状炭化水素基を有する一官能性単量体 A の少なくとも 1 種と、（b）上記単量体 A と共重合可能な、重合して上記非水分散媒に可溶性となる一官能性単量体 B の少なくとも 1 種とからなる共重合体であることを特徴とするインクジェットプリンタ用油性インク組成物。

【選択図】 なし

特願 2 0 0 2 - 2 8 2 9 4 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 2 0 1]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 1 4 日

[変更理由]

新規登録

住 所

神奈川県南足柄市中沼 2 1 0 番地

氏 名

富士写真フイルム株式会社